



第39回 四国大学文学部書道文化学科

教員展

〔学科教員による作品展〕

【プラザ展】

会期 2025年8月1日(金)～3日(日) 10:00～18:00

場所 四国大学交流プラザ3Fキャンパスギャラリー
(徳島市寺島本町西2丁目35-8 電話088-602-4858)

【学内展】

会期 2025年8月4日(月)～24日(日) 9:00～18:00
(但し、9日(土)～17日(日)は休館)

場所 四国大学書道文化館1Fギャラリー
(徳島市応神町古川) 電話088-665-9705

四国大学文学部書道文化学科は、「書道に親しむ」から「書道を楽しむ」、さらに「書道を活かす」へと発展させ、書道文化の専門的探求を目指すユニークな学科です。

書道文化学科の学生たちは、書道の「技術」「歴史」「理論」などを探求していく中で書道文化を理解し、また書の作品制作を通して自己を表現することを学ぶと共に、新たなことを創造する発想力を身につけていきます。学生が身につけた力は書道以外の分野でも応用範囲が広く、卒業後には様々な職業の中でそれを活かして活躍しています。

私たち教員も、教育と研究の責務を果たすべく日々取り組んでいます。この展示会は、学科の専任と非常勤の教員が書法研究発表の場として年一回開催し、今年で39回目を迎えました。時期をずらして2会場で開催します。なにとぞ御高覧のうえ、御教示賜りますようお願い申し上げます。(出品者一同)

(題字揮毫：辻 尚子、背景：吉野川橋)

主催 四国大学 学際融合研究所 言語文化研究部門

太田 剛(仙鳩)

思源



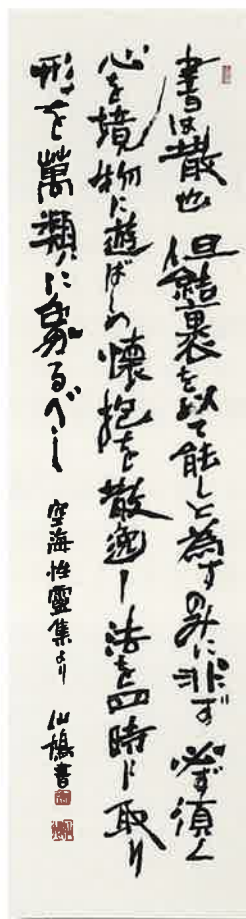
144×77

宮本武蔵『五輪書』より



136×35

空海『性靈集』より



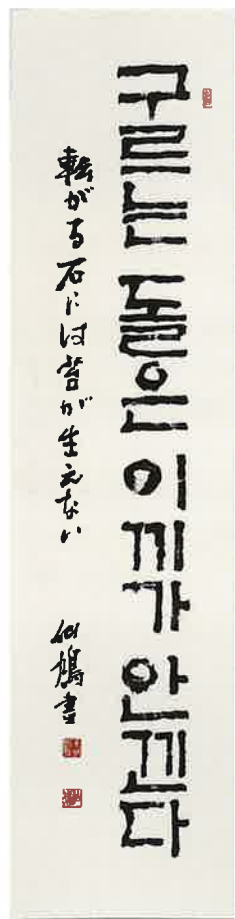
128×35

「松下幸之助の言葉」



68×35

ハングル版本体「韓国」の古諺」



122×32

辻 尚子(紅雲)

白居易詩「燕子樓三首」



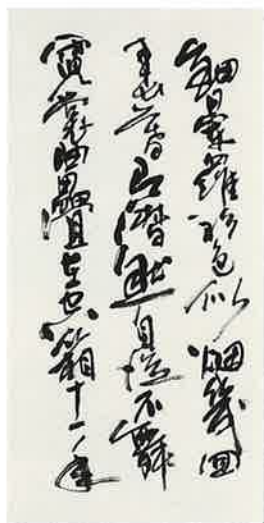
35×135



67×35



67×52



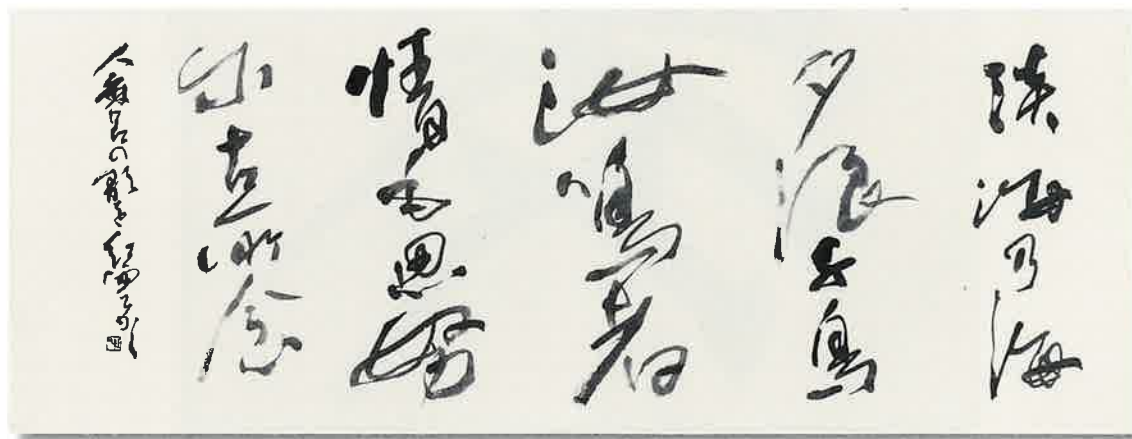
67×35

燕子樓

鈿暈羅衫色似烟
幾回春暮即潸然
自從不舞霓裳曲
疊在空箱十一年

滿窓明月滿簾霜
被冷燈殘拂臥床
燕子樓中霜月夜
秋來只爲一人長

今春有客洛陽回
曾到尚書墓上來
見說白楊堪作柱
爭教紅粉不成灰



70×180

柿本人麻呂の歌

淡海乃海
夕浪千鳥
汝鳴者
情毛思努尔
古所念

森^{もり}
上^{かみ}
洋^{ひろ}
光^{みつ}
(^{よう}光)

「^{まう}舞^{けん}虔」



180×90

渡^{わた}
邊^{なべ}
周^{しゅう}
一^{いち}
(^{せい}星^{ほう}舫)

「龍襄」



3×6

「賢義」



2×2

「要處」



3×3

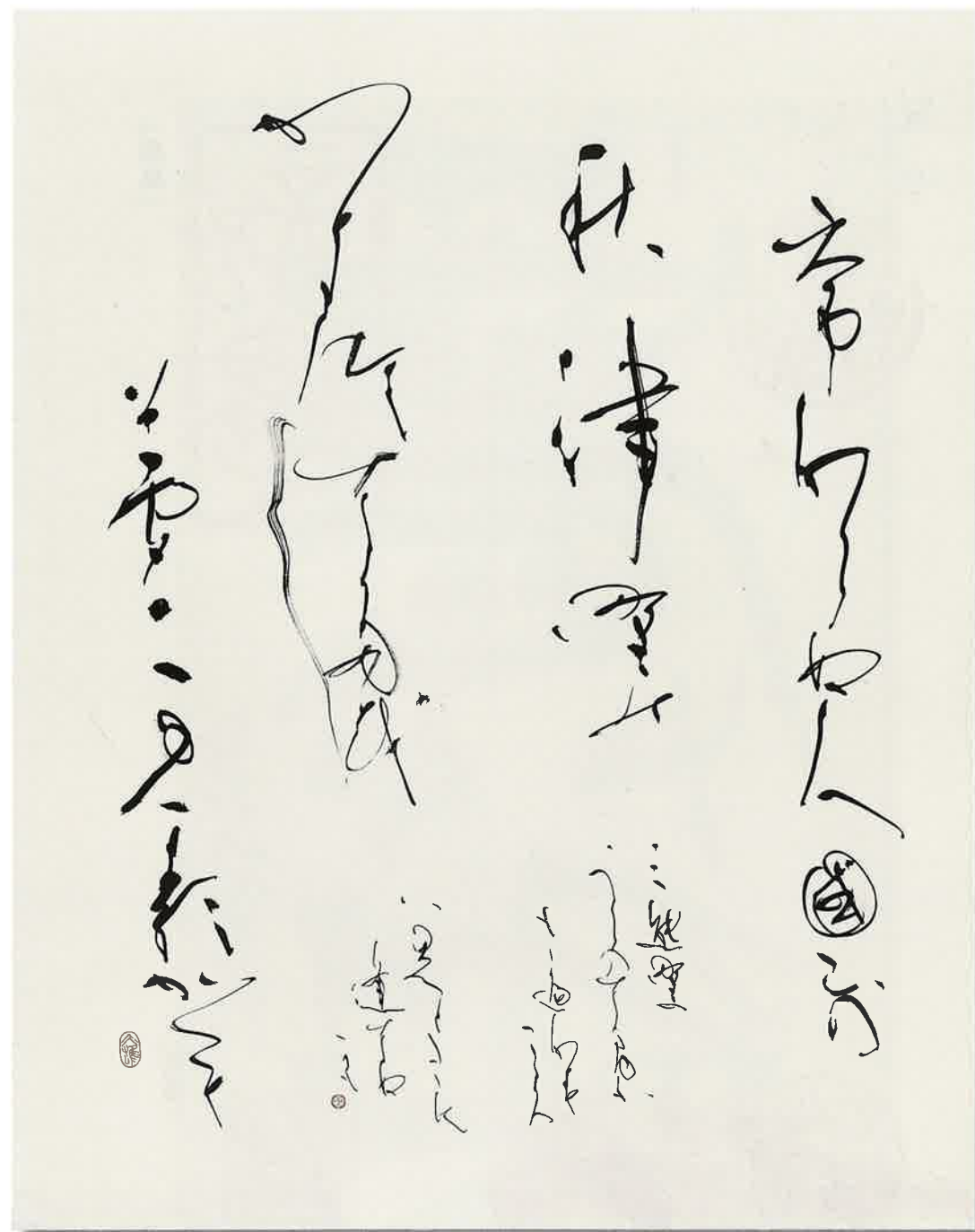
「照四国」



2.5×2.5

田たノの岡おか 大だい雄ゆう

「秋津野」(『万葉集』より)



175×70×2

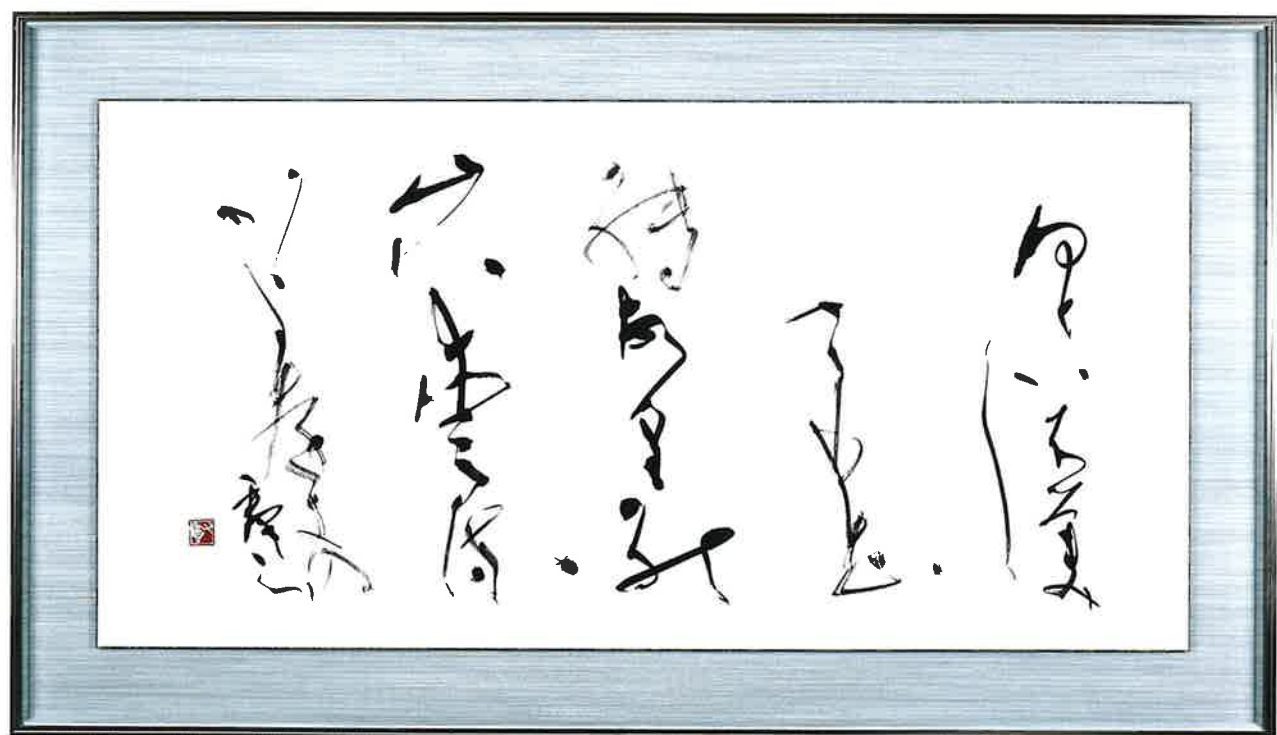
常ならぬ 人国山の
秋津野の
杜若をし
夢に見るかも

み熊野の
浦の浜木綿
百重なす
心は思へど
ただに逢はぬかも

黒くろ田だ賢けん一いち

「ふる里」

(窪田空穂の歌)



本紙90×180

何といふ美しさ
もちて故里の
山はあるかよ
雪の群山

川^{かわ}
尾^お
朋^{とも}
子^こ

上^{うえ}
田^た
普^{ひろし}

「LOVE #66 distance」 2020作



70×135

愛

「雨 Rain Book 山水」



25×17

鹿か倉くら壯たけ史し（碩齋せきさい）

「千官春珮擁朝班 萬國歡聲動聖顏」



161.5×38.5

黒くろ木き知とも之ゆき

莫是龍詩

朱竹起自東坡試院時、興到無墨遂用朱、筆意所獨造便成物理、蓋五采同施、竹本非墨、今墨可代青、則朱亦可代墨矣。

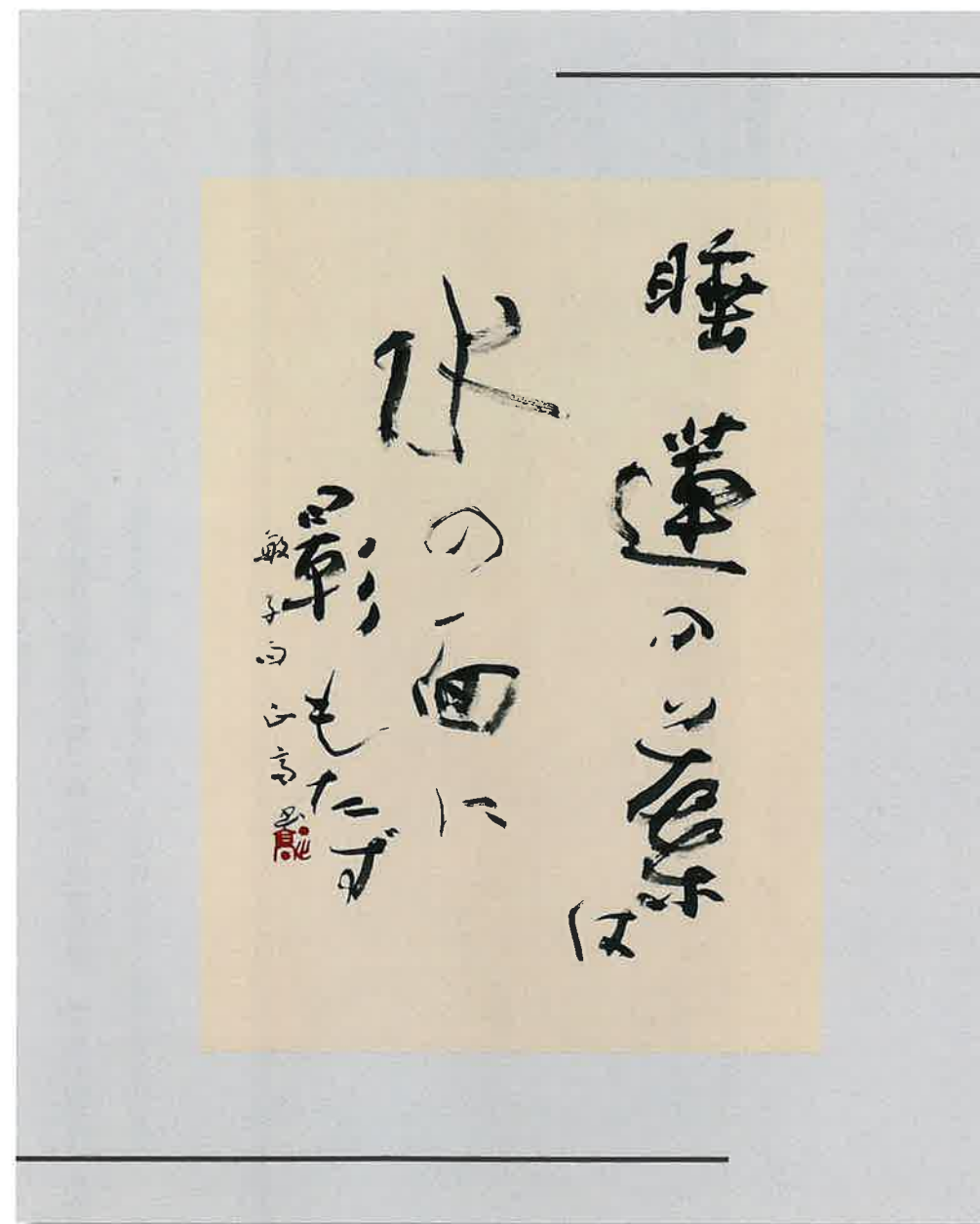
「朱竹」



135×35

小^こ
竹^{たけ}
正^{まさ}
高^{たか}

「睡蓮」(高岡敏子の句)



33.4×24.3

睡蓮^{すいれん}の葉は
水^{みづ}の面^{おもて}に
影^{かげ}もたず

坂^{さか}
野^の
美恵子^{みえこ}

「イメージの世界」



103×72.8

松^{まつ} 村^{むら} 茂^{しげ} 樹^き

「俗竹図」



33×24

竹即四君子之一、仍其畫亦可高雅乎。

然我畫竹極俗、蓋其胸中滿塵之緣故也。

乙巳夏日、松村茂樹撰并書。

【現代語訳】

竹は四君子の一つなので、その画も高雅であるはずだ。だが私の画竹は極めて俗で、おそらくは胸中に塵が満ちているためであろう。

乙巳の夏日、松村茂樹が撰し并せて書した。

【阿波ゆかりの書人作品 紙上展】

四国大学 書道文化センターでは、近世から近代にかけての阿波と淡路に関係の深い書人の作品を中心に収集しています。この時代の地方の書道を担った学者・僧侶らは、既に名前を忘れられていることが多いのですが、書の技術は高く個性的で、近世・近代の日本書道史を考える際の重要な資料になります。行草の漢文や変体仮名の作品が多く、現代人には読みにくく経年劣化も目立つため、ともすれば、世代交代の折に廃棄される危険があります。翻刻はまだ間に合っておりませんが、教員展の際に、書人の履歴と共にその一部を展示し、地域の皆様や学生達にも鑑賞をしていただくことで、書人の名を記憶に留め、次代に伝えていきたいと考えています。

おかもとたいなん
岡本対南

明治三〇昭和三十（1870～1955）八十六歳

徳島富田浦の人。徳島藩家老 賀島氏の家臣 金沢勝の三男。名は由喜三郎。十三歳の頃から藩儒である岡本家の友徳堂で漢学を学ぶ。明治十九年（1886）に才能を見込まれて岡本斯文の養子となり、家学を継承する。明治二十二年（1889）に大阪の泊園書院に入り、二十四年（1891）には東京の明治法律学校に入学。さらに友徳堂出身の本田種竹の斡旋で、東京帝国大学教授島田篁村の私塾に入る。二十七年（1894）に徳島に帰り、徳島県師範学校助教授を経て、県立徳島中学校教諭となり、三十五年間在職して優れた漢文教育をおこなった。一方で道遥同好会を設立して、漢詩文の振興に尽くした。その穏やかな書風も地域の人々に好まれ、徳島県の石碑の多くに撰文と共に揮毫もしている。

柏溪榮華迎令辰梅苞一頃作佳賓風
懷未了烟靄淡百歲松齡十五春
甲午新正書懷
八十五翁對南

出 品 目 録

太 田 剛 (仙鳩)〈教授〉

「思 源」

空海『性霊集』より

宮本武蔵『五輪書』より

松下幸之助の言葉

ハングル版本体 韓国の古諺

辻 尚 子 (紅雲)〈教授〉

白居易詩「燕子樓三首」

「七轉八起」

柿本人麻呂の歌

「年 輪」

森 上 洋 光 (洋光)〈教授〉

「躰 虔」

「揚 衡」

「臨毛公鼎銘」

渡 邊 周 一 (星舫)〈准教授〉

『孟子』語 他

『漢書』語 他

『荀子』語 他

『易経』語 他

陶淵明の語

田ノ岡 大 雄 〈講師〉

「秋津野」(『万葉集』より)

「星月夜」(稲畑汀子の句)

「ひまわり」(自作句)

「Portable Art Museum -akatombo-」
(自作句)

黒 田 賢 一 〈客員教授〉

「ふる里」(窪田空穂の歌)

上 田 普 〈特認教授〉

「雨 Rain Book 山水」

川 尾 朋 子 〈特認教授〉

「LOVE #66 distance」2020作

鹿 倉 壮 史 (碩齋)〈非常勤講師〉

「千官春珮擁朝班 萬國歡聲動聖顔」

黒 木 知 之 〈非常勤講師〉

「朱 竹」(莫是龍の画賛)

小 竹 正 高 〈非常勤講師〉

「睡 蓮」(高岡敏子の句)

坂 野 美恵子 〈非常勤講師〉

デザイン作品「イメージの世界」

松 村 茂 樹 〈非常勤講師〉

「俗竹図」(自賛)



〒771-1192 徳島市応神町古川

四国大学

学際融合研究所 言語文化研究部門

TEL 088(665)1300

FAX 088(665)8037

ホームページ

<https://www.shikoku-u.ac.jp/education/gakusai-yugo-labo/lc-dep/>